座談会2

# わずかな交流の中で感じられたイギリス代表チームは、 多様性が当たり前、優しさと愛情にあふれていた。

※お名前の後の()内はボランティアの参加経験です。

#### ●印象的だったことは?

丸尾 距離をとり離れていても出 来ること、伝えられることというこ とで、一生懸命旗を振ったりしなが ら車を追いかけてお見送りをした りしましたね。選手たちはお土産 を買いに行けないので、私たちの 作った「くす玉」をとても喜んでく れました。数ある中から私の「くす 玉」を選んでくれた瞬間に「I made it! | と言ったら、「とても可愛い! | と喜んでもらえて嬉しかったです。 こういったことをWorkplace (情報 共有用のSNS) に書いておくと、後 でそれを見た人から「様子がわかっ て良かった」と言ってもらえました。 安藤 私の嬉しかったことといえ ば、人生初めて新聞に載ったこと、

そしてラグビー男子の 選手たちがバスの中か ら、洗練された熱い投げ キッスとダンディー な生ウインクを下さ いまして。それに心

を射抜かれてしま 安藤奈弓(3回目) いました(笑)。

入野 私たちのお ただけて心から感謝 もてなし活動は選手たちがSNSで アップしてくれた。ただ、等々力 は川崎市にあるけど「#ヨコハマ」 で投稿されていたので、もっと早 い段階でここが川崎であることを

知ってもらえていればよかったな。

限りの活動機会がい

#### ●楽しかった活動

安藤 活動の最初は緊張してし まって。でもせっかくなら楽しも う、自分を出そうと声をかけてい たら皆さんと親しくなれ、意見を 言いやすくなりました。今回学ん だのは、人とは比べない、自分に負 けないということです。

入野 私は年下の方なので、意見 を言ってもいいのかなと思ってい ましたが、ある時リーダーを任さ れたことがあり、皆さんのおかげ

でうまくやれ自信が持

丸尾真実子(3回目) コロナ禍で子どもを

てました。皆さんとて も良い人たちでした。 丸尾 Workplaceで さまざまに報告し

ていくことから、 繋いで、繋いで盛 オリパラ両方で活動。 り上がれた感じで 連れてきてあげられ す。コロナ禍で事 前研修ができな

かったのはちょっと残念でした。 安藤 オリンピックがあって、イ ギリスが事前キャンプに来てくれ て、川崎のボランティアができた。 事前キャンプを中止した国もある

のに良かったね、と友人から言わ れました。

#### ●選手団との交流で感じたこと

川上 パラの選手とスタッフの間 には、「サポートする、される」とい う立場の違いがあるのですが、そ ういう雰囲気が微塵も感じられな い点がすごい。お互い当たり前に 行動している仕草や気持ちが垣間 見えて。あれは社会的な土台が 出来ているんだなと思いました。 "Impossible to Ignore" というス ローガンがありますが、最初に「見 過ごすな」「もっと関心をもって」位 の意味かと。でも「見逃せないぜ」 「これはすごいことだよ」というも う一歩踏み込んだ意味をもってい るのを強く感じました。イギリスっ て「多様性」と声高に言わなくても そこら辺がきちんとできている国 なんだと感銘を受けてもっと好き になりました。ロンドンパラリン ピックを契機にイギリスはそうい

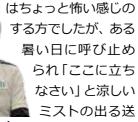


う社会になったと聞きましたが、 東京が同じようになるにはコロナ が邪魔をしていて残念です。

丸尾 私もそういう風景を子ども に見せてあげたかった。

#### ●素敵な出会いも

川上 オリンピックチームを仕 切っていたスタッフのゾーイさん



川ト直一(初めて) 「Nobita」です。お互い がリスペクトするいい 雰囲気の中で活動でき せてくれた。そ て楽しかった。

風機の前に立た の時の彼女は本

当に柔らかい表情で、もっと直接 の交流ができていればお互いを もっと出せたんじゃないかなと思 います。あの表情を忘れられない、 優しい人なんだなあと思いました。 入野 パラリンピックの大会ボラ ンティアもしたので、イギリスメ ディアの方に思い切って「等々力の ことを知っていますか」という質問 をしました。そうしたらイギリス 関係者の中では「等々力はとてもい い雰囲気でみんなすごく感謝して

いて本当に有難いとい うことになっている よ」という言葉が。そ ういうことがちゃ んと伝わって いてとても嬉し かった。話しか けてみて本当に 良かったです。

入野志保(2回目) オリンピック・パラリン ピック両方に参加。と ても素敵な方たちと出 会えて良かったな。

# 振り返り 座談会❸

# パラリンピアンから学び得た数々の宝物。 自分の可能性を広げてほしい。子どもたちへ伝えたい。

#### ●今までのボランティア経験

西川 スポーツボランティアは初 めて。オリンピックには

幅広いスポーツのイ メージがあり、国際交 流的な要素もありま した。ですから今 回は参加された 方も老若男女、 語学が堪能な

方、特定の競技

の事を詳しく教



えて下さる方がいて、いろいろな 驚きがありました。

Sasha 中学牛の時、タイの子ど もたちにオルガンや文房具を届け るボランティアを初めて体験し、 留学先では募金のボランティアを しました。海外でボランティアの 経験をしてきて、今回英語が話せ ることで何か川崎に貢献できるの ではないかと思い応募し、活躍で きたと思います。

#### ●事前キャンプを通じて

西川 英国スタッフとのやりとり で英語を使ったコミュニケーショ ンが結構ありました。

Sasha パラの選手たちは障害が あっても乗り越えて進んで行く気 持ちが強く、目的を持ってゴール を目指すことがすごく大事だとい うことを学ばせていただけた。本 当にすごい宝物をこのボランティ アでいただきました。それを今、 川崎の子どもたちに伝える役目を 持っていると思いました。私はそ



のミッションをかな えていきたい。

小川 私は英語が 苦手で必死に会 話を覚えたの ですがコミュニ

小川歩美(10回以上) ケーションはあ まりありません ティアを経験した中で、 也元川崎市の英国事前 でした。それはキャンプ!嬉しかった。

それで得意な方にお任せして自分 は別の役割で貢献できればと思っ ています。私はスポーツボラン ティアの経験があるので、チーム ビルディングとか、コンピューター での調べものとかで一定の役割を 果たせたかなと思います。

香川 私は町田市で障害児のス ポーツ指導員をやっていました。 パラリンピックの選手たちはハン

> ディキャップに悩み、 それに打ち勝って 頑張っていると感 じ、ただ記録に 挑戦するという ことだけではな

香川昇(3回目) ような高齢のボランティ アへの皆さんの自然な心

たぶん私が最高齢。私の くて、人生の八 ンディキャップ 遣いが嬉しかったです。 に対する挑戦。

そんなに接する機会はなかったで すけれども、近くにいるだけでも それを感じられる。パラリンピッ クに力を入れていくのは非常に意 義があると感じました。

### ●ぜひ伝えたい活動の経験

香川 やはり目的と希望をもって 生きていくということがとても大 事です。

Sasha そうですね。さっき小川 さんもおっしゃっていましたが、 これは得意ではないが他のことで 貢献できる、という考え方が大切 だと思う。何か得意なことを一つ

持っていれば強いということがわ かると、目標に向かって人生を楽 しく進んでいけるのではないかと。 西川 車いすというとどうしても 介助のイメージでしたが、実際は 選手たちはスロープでも一気に スーッとご自身で行かれて。私た ちのイメージがマイナス過ぎた。 私たち以上にできることがたくさ んあると感じました。性格もとび きり明るくてフレンドリーでした。 Sasha おもてなしにもすごく感 動してくれて。

## ●この経験をここだけで 終わらせたくない

Sasha 今回約1,600人の応募が ありそこから300人に絞られた。 今思うのは、せっかくのボランティ ア登録をここで終わらせずに川崎 市がこの後も活用してくれたらと いうこと。個性豊かな人たちがそ ろっているので、世界から評価さ れるような都市に成長させて行く ためにいかしてほしい。

横浜は「ヨコハマ」で通 じるのに、「カワサキ」 だとバイクなんて … (笑)。素晴ら しい川崎を世界 に発信していく お手伝いが出来た

ら嬉しいです。



小川 この経験を118人のサポー ターが自分の知り合いに伝えられ たら、多くの人に伝わるのでは。

西川 子どもたちが知る機会が増 えるといいですね。自分の可能性 を広げるきっかけになる。

香川 人材の宝庫でした。

西川 老若男女、みんな集まって いたのが最高でした!

# かわさきパラムーブメントフォーラム

# 英国代表チーム事前キャンプ 活動報告

サポーターを代表して小川さんと金野さんが、川崎市主催「東京大会を終えて共生社会へ向けた新たな幕開け~かわさきパラムーブメントフォーラム~」(2022年2月20日)において活動の報告を行いました。ここではその一部をご紹介します。



# この出会いが新たな活動へと 繋がっていくことが楽しみです

小川 歩美

コロナと向き合いながらの取組でしたが、ゾーン分けなどの対策がされていたので、不安は感じませんでした。選手との物理的な距離はありましたが、選手の誕生日をお祝いするなど、それなりのおもてなしも出来ました。東京2020大会では大会ボランティアとしても関わっておりまして、実際に試合に臨む直前の選手も間近で見る機会がありましたが、ピリピリ感というかオーラがすごいと思いました。私はオリンピック・パラリンピックが終わってもボランティア組織が続いている他の都市をうらやましいと感じ、川崎市も今回活動したボランティアたちやこれから始める方も含め、そういった人材をいかしていくような機会を作っていただけたらと思っています。

# 心の中に素晴らしい宝物 踏み出せた一歩が本当に嬉しい

金野 英美子

コロナ禍でのボランティア活動は、周囲の人たちがすごく心配していましたし、ボランティアまでの第一歩を踏み出すのは勇気がいりました。しかし不安を覆すほどに「やってよかった」と強い思いが残りました。オリンピックの開始時期がちょうど七夕の頃だったので「笹を飾ってはどうか」ということでみんなでメッセージを書きました。また折り紙が得意な方がいらしたので、協力していろいろな物を作りました。名前をカタカナに変えたカードを作ってみたら、英国の選手達に大変好評でたくさん注文を受けました。参加したことで、私の心の中に宝物が一つできました。一歩踏み出して参加すると人生変わるよ、とみなさんに伝えたいです。

# コロナを乗り越えてみんなで勝ち取った新しい社会への気づき

コメンテーター 御手洗 潤

コロナ禍での開催、大変な思いをされたことと 思います。そのような中でも多くの方に参加をし ていただいて、折り紙とかカタカナの名札とか、新 しいものが生まれてきました。文化と触れ合うこ とによって多様性はクリエイティビティを生むと 言われていますが、正にその典型です。ホストタ ウンという仕組みがコロナの中では無駄だったの ではないかという事も言われましたが、決してそ んなことはなく、考えていたよりももっと素晴ら しい、想定以上のものが残りました。その結果が、 英国からの「史上最も素晴らしいキャンプ地だっ た」という評価です。本当に素晴らしい取組です。 また、パラリンピックの選手たちに夢中になって しまったサポーターがたくさんいたとか、パラリ ンピアンは体の障害を感じさせない、むしろ人間 的に豊かだったというお話もありました。このよ うに一人ひとりが気づいていくことこそ心のバリ アフリーだと思います。貴重な体験を共有してい ただき、どうもありがとうございました。

御手洗 潤●内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局参事官として、東京2020大会を契機とした共生社会の実現に向け尽力。現在、東北大学大学院法学研究科・公共政策大学院教授、京都大学経営管理大学院客員教授

# ●サポーターからの一言メッセージ

英国代表チームの事前キャンプ受け入れを支えたボランティア「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」の皆さんに、コロナ禍で困難を極めた激動の日々を振り返り、今の想いを込めたメッセージを寄せていただきました。

※サポーター登録者118名のうち、寄稿した27名 のメッセージを、フルネームまたはニックネー ムで掲載しています。

#### ▶ Kayo Ta

暑かった夏!短いようで長かったぁー。おもて なしを合言葉にアイデアを出し合い、形になり、受



け取った選手の喜び を現代ツールで確認。新しいおもてな しの誕生。接触はな かったけれど、心は とっても密でした。

#### ▶若林 敏

ボランティアの皆さんと生田緑地でのGOGB応援メッセージ録画、Tokyo2020の中止さえ囁かれ

るなか、TEAM GB・ParalympicsGB選手団のお役に立てたことは、人生の忘れえぬビッグイベントでした。



#### ▶小川歩美

サポーター活動期間中の仲間との思い出を作り たいと思い、サポーターのみなさんの写真を集め



てモザイクアートを制作 しました。英国代表チー ムのみなさんにも川崎の ハートマークが印象付い ていたら嬉しいなと思い ます!

#### ▶イソガワ ヒロアキ



主体的にアイデアを出してシフトを超えて実現していったボランティアチーム!このネットワークを今後国際イベント、訪日ゲスト、在住外国籍の方へのホスピタリティにいかしていければすばらしいですね。

#### ▶KU

五輪に関与できるのは一生に一回と思い、活動しました。 周りのサポートメンバーは気配りや行動力など秀逸で自分は見習うことばかりでした。国際交流や社会貢献等の活動は、一生に一回とせず、またチャレンジします。



#### ▶田邊倫美

等々力陸上競技場で、 私たちにいつも笑顔で 手を振ってくれた英国 代表チームの選手たち に、すっかり心を奪わ れました!一緒に活動



したサポーターやスタッフの皆さんも選手と同じ くらい魅力的でした。GOGB!

#### ▶KAZU



さまざまな活動体験をありがとう。英国チームの親切心、忘れられません!炎天下、バブル管理終了後コーチが英国エリアから冷水をボランティアに。バブルゾーンを通過したパプニング(熱射病の高校生を人助け)も。

#### ▶齋藤英雄

選手たちとの直接の会話はほとんどできませんでしたが、彼らを歓迎している気持ちは十分に伝わったと思います。一緒に活動したボランティアの皆さんが、積極的に地道な仕事をこなす姿には、感銘を受けました。



#### **▶**Sasha



IMPOSSIBLE TO IGNORE = パラリンピック選手から困難を 乗り越え、希望と目標に向かっ て突き進むことが全ての人に とって大切なことだと学びまし

た。素敵なボランティア仲間との出会いに感謝!

#### ▶安藤 奈弓

英国選手の方々は折り紙などで作った日本らしい贈り物を喜んで下さり、おもてなしの心が通じ感動しました!私たちボランティアと支えて下さった川崎市・事務局との連携プレーは正に金メダルに値する尊い経験でした。



#### ► Yachi KINOSHITA

久しぶりの社会活動に不安もありましたが、家族 の応援も受け楽しく過ごせました。さまざまな経歴

をお持ちのサポーターの 皆さんと一緒に英国チー ムのお手伝いが出来た ことは刺激的で充実した 日々となりました。



#### ▶岩本麻里子

素晴らしい仲間との充実した日々。一番の思い出



は、日本の思い出を裏方の人達にも持ち帰ってもらおうと、短い期限のなか、横浜市の方と力を合わせてくす玉を完成させたこと。私達の想いはきっと今もイギリスのどこかに!

#### ► Masanori Fujii

人生初のボランティアでした。 パラのみ、たった4日間の参加で したが、最後の1日にやった「お見 送りオンステージ」で、選手と少 しでもふれあえたのがよかったで



す。レポート投稿もさせて頂き、満足な夏でした。

#### ▶tkm



感染症対策 できないこと もど かしいことxアイデアとホスピタ リティ ハートの熱いOne Team =テレビには映らない名シーン 心のハイタッチ Memories for a lifetime!

#### ▶吉村百合子

20年秋に長男が生まれ、限られた日数でしたが、大変お世話になりました。関係者の皆様とゼロから工夫しながらサポート・おもて



なししたことは、貴重な経験となりました。 将来子供 にも、 伝えたいと思っています。

#### ▶藤本 智子



パラ陸上チームの事前キャンプ最終日に歌のプレゼントをしたことが思い出深いです。実は人前で歌うことは得意ではないのですが、サポーター達起案で考えた替え歌と振付、選手の方々にも喜んでもらえて嬉しかったです。

#### ▶中村啓

活動を通して、素晴らしいチームメイトと出会えました。年齢、職種、生まれや育ちなど多種多様な背景の方々と、ひとつのチームとして仕事ができたことは、私



にとってかけがえのない貴重な体験となりました。

#### ▶佐藤みどり



さすがコロナ禍でも手 を挙げられた方ばかり、こ んなにポジティブで問題 解決能力の高い集団に参 加したのは初めてで、大変 刺激を受けました。楽し かったです。

#### ▶のりひろ

サポーターを募集と言うニュースを聞き応募したが、まさかの面接や適性確認などの事前選考にドキドキ。コロナでおもてなしも限られたが、アスリート達の姿を間



近に見られ、2021年の忘れられない夏になった。

#### ▶安田 岳生

選手やスタッフからの感謝の 言葉やSNSでの反応がとても嬉 しく、ボランティア冥利に尽きま した。選手たちの快進撃はまるで 親戚が活躍したかのように感じら れ、私も多くのパワーをもらえた 2021年の夏でした。



#### ▶徳野千鶴子

人間の鍛えられた肉体と強靭な精神に驚嘆しま



した。事務局のみなさん、ボランティアのみなさんの適応力と チームワークにも感激しました。 アスリートのみなさんが川崎の ボランティアを思い出して下さ いますように。

#### **▶**SHIHO

数回コーチ陣の方と電話する機会があり、コミュニケーションをとることが出来ました。要望に応えられるか不安でしたが、対応できて安心しました。また、感謝された際は嬉しかったですし、やりがいを感じました。



#### **▶**Nobita

自立・自律した仲間との充実の20日間。応援動画で"The Beatles!"、パラ最終バスには"Go!GB!"と叫ぶ。次はこの出会いと絆を胸に英国で"Go!KAWASAK!!"と叫びたい。



#### ▶はらまこ

ボランティア活動のお陰で、初めて等々力競技場 に行き市民活動に参加し、アイラブ川崎! 地元愛に目



覚めました。選手がベストを尽くせるようにと祈りながら、一生分の折り鶴を折った、忘れられない夏になりました。

#### ▶栗村政明

事前キャンプでの活動は正直なところコロナで水を差されたことは否めませんでした。しかし、制約のある状況の中でも選手とサポーター、英国と日本にとって濃密な一生の記憶に残る交流ができたのではと思います。



#### ▶金野英美子



私は今回が本格的ボランティア デビューで、ずっとドキドキしてい たが、チャレンジして良かったと思 う。未経験、不得意分野でも問題な い。頼もしい仲間に出会えたこと は私の宝物となった。

#### ▶tomoknyan

1年の延期もあり、パラリンピックの方のサポーターとして4日間のみの参加でしたが、英国チーム選

手の方々に喜んで頂ける活動を他のサポーターの方々と一緒にできて、とても楽しいかけがえのない時間となりました。



64

# ●事前キャンプ担当者が振り返る苦労と感動

# 等々力に来れば思い出す!?

初めに、事前キャンプ期間中の話をするうえで大事なことは、私自身が4月に異動してきたばかりで過去の経緯等がまったくもってわからないこと。約3か月後に控えた聖火リレー、オリンピック・パラリンピック事前キャンプを成功させるうえで(聖火リレーは中止になりましたが)施設管理者として等々力陸上競技場という巨大施設について中学生の時に入場した最後の記憶と現状を擦り合わせることから始まったことを頭の片すみに入れていただきたい。

早々に現場確認を行いバック・サイドスタンドは 当時のままだったが、メインスタンドは新しくなっ ており1から覚えることになった。幸いにも]リーグ の試合が4月、5月に多くあり現場確認する機会に恵 まれ各諸室の利用方法、避難経路の動線等を確認す ることができた。現場で働く皆さまからも施設につ いて現状の課題を教えてくれたため、短い期間で多 くのことを吸収することができた。ただ、事前キャ ンプ期間中の運用についてはオリンピック・パラリ ンピック推進室と調整を行う必要があるため、英国 の希望がどのようなものになるか検討が付かないと ころが不安でしかなかった。オリンピック・パラリン ピック推進室と打合せを行った結果、感染症対策と して日本側と英国側で競技場内でのエリア分けを行 うこと以外に情報が無く、本当に英国チームは来る のか、と疑うこともあった。

いざ、開催すると決まったあとは動きが早く、情報が多く寄せられるようになった。肝心の練習開始日、時間については6月末の時点で大まかにわかるぐらいで、確定したのが7月に入ってからだった。各競技の練習日、時間が判明し関係各所と調整が済み実際に事前キャンプ期間中は毎日、等々力に行き当日の予定を確認していた。英国からのオーダーが多くきており、「オイ、ちょっと手が空いてるなら手伝ってくれ」と誰とは言わないが某課長によく声を掛けられた。テントの設営、走り高跳びで使用した備品の片

中原区役所道路公園センター管理課 多田 暁弘

付け、投てき種目の準備をオリンピックチームが選手村に入るまで何かしらの作業を行った。

オリンピックチームのキャンプ期間中にだいたいのことはやっていたので、パラリンピックチームがきても柔軟に対応できるだろう、と思っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により社会情勢が変化し、パラリンピックチームのキャンプ期間中は選手が来る、練習終わったら帰る、の繰り返しで前回とは違い私自身も予定を確認して報告に戻るだけになってしまった。

最後はあっさりと終わってしまったが、残務処理 がある。使用料の請求が主な仕事になるが7月から 9月初旬までほぼ毎日使用していたため、約2ヶ月分 の使用報告書を計算するのがとても大変と思ってい たが、ほとんど同じ時間帯で使用していたためそれ ほど苦ではなかった。請求もオリンピック・パラリン ピック推進室を通して請求したため時間がかかった が無事、納付されたことは嬉しかった。

施設管理者として全てが終わったと思っていたが、その後の記念碑設置や今回の執筆活動が予想外であり、大会が終了したから終わりではなく、次世代にもわかるかたちで記録を残そうと尽力するオリンピック・パラリンピック推進室には頭が下がる。今後、異動して間もない期間でこれほどの濃密な時間を過ごす貴重な体験はなかなか無いと思っている。



# 等々力緑地における東京2020大会 事前キャンプのおもてなし

本市を代表する総合公園である等々力緑地においては、世界的なスポーツの祭典である東京2020大会の英国代表チームの事前キャンプを最善の環境で受け入れるため、当室では、陸上競技場の再整備と緑の装飾を担当しました。

まず、等々力陸上競技場が事前キャンプ地の候補となったきっかけは、英国オリンピック関係者が、東京周辺のキャンプ地を「Google Maps」で調べたときに見つけたと聞いています。改めてインターネットで調べてみると、新国立競技場から等々力緑地までは直線距離で12kmと近く、候補地となったのも納得です。再編整備を進める等々力緑地を他国から確認できるのもインターネットが当たり前になった21世紀のオリンピックならではだと思います。

さて、今回整備を行った等々力陸上競技場は、1964(昭和39)年東京オリンピックを開催してすぐの1966(昭和41)年に整備され、半世紀以上市民等に利用され、親しまれている本市唯一の公認陸上競技場です。全国規模の大会も開催できる第1種公認陸上競技場となったの2008(平成20)年と最近で、公認取得後、第92回日本陸上競技選手権大会兼第29回オリンピック競技大会(2008北京)代表選手選考競技会を皮切りに、セイコーゴールデングランプリなど国内最大規模の大会を開催し、第1種公認陸上競技場としての実績を重ねてきました。

今回、事前キャンプ受入れに向けて最高の環境を整えるため、陸上競技場と補助競技場を改修することになりました。再整備にあたっては、川崎市陸上競技協会、川崎市サッカー協会、川崎フロンターレなどの利用者団体の協力いただき、予定通り整備を完了しました。何割増しの言葉かはわかりませんが、英国代表チームからは、等々力陸上競技場に対しては「Fantastic!」との評価をいただき、安心したことが印象に残っています。

また、陸上競技場の再整備に加え、英国代表チーム を受け入れるにあたって、緑の装飾による「おもてな し」を行いました。本来は、英国代表チームの皆様が、 練習の合間に少しでもリラックスしていただけるよ 建設緑政局等々力緑地再編整備室 鈴木 修司



「GOGB」立体花壇



市民によるイングリッシュガーデンの手入れ

うイングリッシュガーデンを設置し、母国に思いを馳せていただくとともに、市民の方にも英国を感じてもらうことを目的に実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、選手の方が競技場から自由に公園内にでることはかないませんでしたが、選手がバス等で競技場を出入りする際には、花壇などの緑の装飾を鑑賞いただけたと思っております。また、市民ボランティアの方の協力をいただきながら管理した花壇は、記念撮影の場所として、SNS等に発信するなど市民に親しんでいただけたことは、思わぬ成果でした。

等々力陸上競技場を含む等々力緑地は、2022 (令 和4) 年2月に改定した等々力緑地再編整備実施計画 に基づき新たな緑地を目指していくことになりました。今回の事前キャンプも含めた緑地の50年以上の歴史を引き継ぎ、今後も市民に親しまれ、世界に発信

できるような緑地としてさらに飛躍できるよう再編整備を進めてまいりたいと考えています。

# 事前キャンプの錆跡

「なんで!? 昨日設置した棒高跳びのセットを反対側に設置のやり直し!?」、…後日、「えっ!?今度は異なる場所にもう1セットを増設!?」「何っ!?午前中にサッカーの練習をして午後はラグビーの練習?ゴールポストの設置はいつするの?ライン引きは?」

等々力陸上競技場は英国チームの女子サッカー、 男女7人制ラグビー、及び陸上競技の事前キャンプの 会場となった。サッカー等の球技種目では、それぞ れライン引きやゴールポストの設置、撤去作業が求 められ、陸上競技でも各種目に応じて、選手たちが来 る前に使用する設備、器具等を整えておくことが我々 競技場職員の役割であった。当初の計画では、アル バイトとして、近隣高等学校の陸上部員たちが毎日 の設備や用具の設置・撤去を日替わりで手伝ってくれ ることになっていた。しかしながら、コロナウィルス 感染症対策のため、この時期にワクチン未接種とな る彼らの応援は一切白紙となってしまった。

いざ英国チームの受け入れが始まって分かったことだが、練習内容の詳細や変更情報は直前になって入ってくることが多く、既定のスケジュールに合わせて組んでいた勤務ローテーションでは頻繁に人手



雨の中、競技場に投てきケージをセットアップ

川崎市等々力陸上競技場 場長 山田 友之



不足に陥った。特に陸上競技ではトラック種目の他、 投てきや跳躍種目があり、それぞれの選手がいつか ら来場して練習を開始するのかなどの情報収集に明 け暮れることになった。

そのような状況のなかで陸上部員に代わって援軍となったのが、皆でハンマー投げケージを移動してくれたりしたサポーターの皆さんだった。彼らは、他にもラグビーゴールポストの設置と撤去、陸上競技用具の準備、片付けなど、真夏の炎天下であってもいつも快く力を貸してくれたのだった。

「明日、台風接近だって?危険なので棒高跳びの支柱は倒しておこう。テントその他の用器具も一通り片付けるしかないよね。また、サポーターにお願いするようですね。」彼らは、本務として英国チームの選手、スタッフへの協力やおもてなしなどに携わるところ、想定外の慣れない作業に加わることになってしまった。この場を借りて感謝!

余談になるが、こんな日もあった。女子サッカーチームが来場した初日、ピッチ上で各々が身体を動かしたり寝転がって日光浴をしたりしているが一向に練習する気配が無い。漸く全員が集まったと思ったら皆でクリケットの試合に興じて、その日はボールーつ蹴らずに終了してホテルに帰っていったのだった。練習日程に余裕が無いなかでその光景には驚か

されたが、きっとその時間は時差ぼけ解消及び酷暑 への順応のために、彼女らアスリートにとって必要 なプログラムだったのだろうと推察した。

パラリンピック事前キャンプ中、8月としては珍しく雨天の日が多く、期間中各所に張りっぱなしだったテントのウエイトの錆がいくつも青いタータンにこびり付き、清掃しても落ちなくなってしまった。

あれから半年たった今でもその錆跡は消えず、そ の傍を通るたびに昨夏を懐かしく想えてならない。 「そう言えば、あの選手がここでフォームの確認を繰り返していたなぁ」と。



パラリンピック チームのために 設置したテント

# 川崎市での英国代表チーム受入れの意義と オリンピック・パラリンピック推進室での業務を振り返って

市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室 鴻巣 玲子

忘れもしない2020 (令和2) 年3月24日の午後、東京2020大会の1年延期のニュースが飛び込んできました。ほんの1週間前に、選手団長自らが率いる英国オリンピック委員会 (BOA) 視察団が等々力陸上競技場や宿泊施設を訪れ、4月下旬から始まるテスト大会や夏の東京2020大会本番に向け、代表チームのロジスティックやパフォーマンス最適化に向けた最終確認を行ったばかりだったからです。大会組織委員会へ派遣中の本市職員も、テレビで大会延期のニュースを聞いて驚いたそうです。

それから事前キャンプがスタートする2021 (令和3) 年7月1日までの約1年3か月は、「東京2020大会は開催されるのか、中止となるのか」「大会が開催されても英国チームは等々力に来るのか」、さらには「コロナ禍で事前キャンプ受入れができるのか」などと、日々自問自答しながら、あらゆる可能性を排除せず、できる準備を最大限進めていくこととなりました。日本国内のホストタウン関係者だけでも何万人もが私たちと同じ心境であったと思いますし、まして選手や大会関係者たちの心中はと思うと今でも胸がざわつきます。

川崎市は他の一般的なホストタウン自治体とは異なり、選手団の宿泊費用や移動費用などを市が負担して代表チームの事前キャンプを誘致したというのではなく、英国側から大会会場に近いという立地の優位性や世界水準の陸上競技場などの高いポテンシャルが評価されてキャンプ地に選ばれたという経

緯があります。また、特にパラリンピック発祥の地 であり、ロンドンパラリンピック大会が市民を変えた と言われる英国のパラリンピック代表チームが川崎 市をパートナーとして選んだことで、市が進める「か わさきパラムーブメント」の取組への波及や協力など が期待できたのも特徴的です。川崎市は英国のホス トタウンであると同時に、ユニバーサルデザインの まちづくりや心のバリアフリーの取組が特に先導的・ 先進的な自治体であると国が認定する「先導的共生社 会ホストタウン」にもなっています。「スポーツを通じ て社会を変革する」という目標を掲げる英国パラリン ピック委員会 (BPA) と思いを同じくして取組を進め ている川崎市とは、互いの信頼関係も非常に固く、担 当者同士も同じ方向を向いて二人三脚で走りながら 準備を進めてきました。信頼関係があったからこそ 困難な調整局面もともに乗り越え、最後まで良好な 関係を継続して事前キャンプを成功裏に終えること ができたのだと思います。そういった意味では、川崎 という都市の強さや魅力、そして市が掲げるメッセー ジは、海外にもしっかりと伝わり、相応に評価されて いるのではないかとも感じます。

日本での開催が57年ぶりとなるオリンピック・パラリンピック競技大会は大規模な国際スポーツイベントでもあり、スポットがあたるのはやはり大会そのものです。会場やテレビなどで競技を観戦することはあっても、事前キャンプが行われることは知らない、さらには興味も魅力も感じない、という方も多いの

ではないでしょうか。では、事前キャンプを受け入れ る意義はどこにあるのか。2017(平成29)年当時のオ リンピック・パラリンピック推進室の職員たちで議論 したのは、選手団の滞在は一時であっても、可能な限 り多くの人たちにオリンピック・パラリンピックに関 わった、という経験や想い出を残せるようにしたい、 それらを糧やきっかけとしてチャレンジする土壌が 生まれれば、川崎市の事前キャンプ受入れのレガシー となるのではないのか、というものです。そこで、英 国代表チームの受入れが確定してからは、多くの人 に事前キャンプへのつながりを持ってもらおうとさ まざまな機会をとらえてブースを出展し、英国向け メッセージを来場者に書いてもらったり、きかんしゃ トーマスのキャラクターを活用して子どもと保護者 に直接的に訴える広報活動を行ったりと、地道で草 の根のアウトリーチの取組を積み重ねてきました。

2019 (令和元) 年7月に事前キャンプをサポートす るボランティアを募集した際には、市内の大学や駅 構内へのポスター掲出、SNSサイトでの広告、市政だ よりや各種広報誌への記事掲載など、多様な媒体を 活用して幅広い世代に情報が届くよう工夫したとこ ろ、10代から70代まで1,601名もの方から応募があ りました。川崎市民の約1,000人に1人が応募したこ とになります。私たち職員が考えていた以上に市民 の皆さんの関心は高く、また、関わりたいと思ってく ださっている方たちが多くいることに正直驚きまし た。最終的に活動に従事されたサポーターはその十 分一に満たず、残念ながら登録にまで至らなかった 方もいれば、コロナ禍の折、さまざまな理由で活動を 辞退された方もいらっしゃいました。それでも、オリ ンピック・パラリンピックというのは、チャレンジし たいという気持ちを後押しするきっかけでもあるん だな、と肌で感じましたし、自分たちがまだお会いし ていだけで、エネルギーあふれる方々が川崎にはた くさんいらして、川崎市の魅力やポテンシャルとなっ ているのだ、と市民の多様性を市職員が改めて知る きっかけにもなりました。

コロナ禍での事前キャンプが終了して半年以上が経ち、東京2020大会もすっかり過去の出来事となっています。当初設定したゴールにどこまで近づいたのか、どれほど次につながる取組になったのだろうかと振り返ってみると、大会延期前に考えていた事前キャンプ受入れの準備は、コロナ対応によりほぼ



BOAの事前キャンプ責任者ニコラ・フィリップス氏の帰国日

ゼロからの再スタートとなり、2021(令和3)年に入ると業務の大半は感染症対策業務となってしまいました。関係者へのPCR検査、バブルの考え方、陽性者発生の場合の手続など、国から感染症対策の枠組みだけは示されましたが、いつまでたっても詳細が一向に定まりません。幸い川崎市は、横浜市、慶應義塾大学とも合同で準備を進めてきましたので、感染症対策の専門家や国際大会で医療を担当されている専門家も組織内におり、他の自治体と比べるとより現実的で詳細な感染症対策方針を練ることができたと思います。横浜市、慶應義塾大学の担当者たちと休日も弁当持参で受入れ準備を詰めていくにつれ、結局ものごとは現場で決まり、現場が動かしていくということも身をもって体験しました。

苦労話はいくら紙面があっても足りないので省略しますが、コロナ禍での事前キャンプ受入れ準備を進めていく中では、臨機応変にあらゆる可能性を探っていかざるを得ない局面が多くありました。そのような局面に陥った時も、本市の場合は必ず、オールかわさきで協力していこう、という空気が流れ、「どうしたら実現可能か」を一緒に考え行動に移してくださる方々が庁内外で救世主のごとく現れました。

例えば等々力陸上競技場をホームとする川崎フロンターレさんとは、これまでも数年来に渡りキャンプの受入れスケジュールについて協議を進めてきましたが、等々力陸上競技場のIT周りで迅速かつ柔軟なサポートをいただきました。7月2日に等々力陸上競技場に初めてやってきたBOAのIT担当者から、いきなり競技場でのインターネット環境のセットアップをしたいと要望が入りました。これまで再三必要ないとBOAが言っていたにもかかわらずです。フロン

ターレさんに相談して急遽IT担当者に等々力競技場に来てもらうことになりました。あいさつもそこそこにBOAの担当者とやりとりしていただき、同じITの専門家同士、英語は通じなくとも専門用語を交えてほんの30分で課題を解決してしまいました。BOA担当者からは何とかして御礼を伝えたいと、フロンターレ担当者あてのプレゼントを託されたりもしました。オリンピック選手団が競技場で毎日優雅にコーヒーを飲みながらBBCの中継を見て英国チームを応援することができたのは彼のおかげです。

あるいは、幻に終わった案件ですが、英国陸上チームから多摩川沿いでマラソン練習がしたい、という要望もありました。本市建設緑政局の担当者がどうすれば対応できるかさまざまに検討し、議論の可能性を広げてくれました。新型コロナウイルス感染症の拡大傾向が止まらず、最終的には多摩川でのマラソン練習は実現しませんでしたが、BOAにもBPAにも本市の検討姿勢は極めて好印象を与えたようです。この対応に気をよくしたBOA担当者のネットワークを通じて、他国の陸上チームにも川崎市の対応が知れ渡り、そこから相談を受けた自治体から本市に相談があったりと、知らないところで国を超えて噂になっていたのです。

このように共通の目標があることで、事前キャンプ 受入れに関わった本市の関係者は、みながチームの 一員として知恵を寄せ合うことになり、最終的に「過

去最高の事前キャンプ地だった」と 英国選手団が感じることができる サポートにつながったと考えてい ます。英国側に対しては時にはNO と言えることも重要ですが、まずは 「できないことではなく、何ができ るかを皆で考えよう」という姿勢で 関係者全員が臨むことができたの が、我がチームかわさきの魅力であ り強みであったと断言できます。

コロナ禍がなければ、選手団との 交流事業などを通じて、数年間に渡 る英国との関係性をできうる限り 有形無形に市民に還元することが できたのに、というじくじたる思い は残ります。それでも、コロナ禍で 実現した短い時間での公開練習で 子どもたちが選手団に送った応援の拍手、ソーシャルディスタンスを固く守りながらのサポーターたちの精力的な活動や手作りのおもてなし、選手団の様子を連日見に来てくれた近隣住民のフェンス越しのお見送り…、こういった小さな交流が日々展開されていたことは純粋に嬉しいことでした。これらの光景の一つひとつは、アーカイブ映像に収録したり、担当者やサポーターの記憶に収まったりしていますし、選手団にも同様に東京2020大会の想い出として焼き付いているでしょう。受入れ記録のすべてを目に見えるかたちで再現し、伝えていくことはもちろんできませんが、映像や記録誌といったかたちで残せるものはアーカイブとして残すことも重要な業務だと考え、作業を進めています。

今回の英国代表チームの受入れを通じてさまざまな直接的、あるいは間接的な経験がありました。受入れ期間中の作業や出来事は氷山の一角で、6年間に渡るオリンピック・パラリンピック推進室での取組は語りつくせぬことが山のようにあります。楽しい思い出もつらく苦い思い出や経験も、いつかどこかで何かの役に立つこともあるだろう、そう思いながら事前キャンプ関連業務のあらゆるクロージング作業を進めています。今回の英国オリンピック・パラリンピック代表チーム受入れに関わった方々にも、それぞれが残したいと思うものを記憶や経験としてそれぞれで保管していっていただければと思います。



事前キャンプ受入れ最終日となる9月3日早朝、 空港へ出発するBPAスタッフを宿泊施設でお見送り



トピアリーでおもてなし(等々力陸上競技場



ParalympicsGB使用時の等々力陸上競技場ホールの様子



特別支援学校のバスを消毒するサポーター



サイン入りシャツとシューズ



ラグビーチーム(男子・女子)から送られたサイン入りシャツ

# 5

# 英国代表チーム受入れに あたっての川崎市ならではの 特色ある取組

The distinctive initiatives unique to Kawasaki City in hosting the GB teams



コロナ禍での事前キャンプ運営は制約も多く、選手団との交流も制限された。しかしながら、 着実に構築されてきた川崎市と英国オリンピック委員会及びパラリンピック委員会との信頼関 係や市内団体によるこれまでの英国応援に向けた取組の蓄積、さらには新たなソーシャルネット ワーキングサービスの活用により、市立特別支援学校スクールバスの活用や等々力陸上競技場内 での英国選手団へのおもてなしといった取組が事前キャンプ期間中に花開いた。また、事前キャンプ以外でも学校等での給食献立を活用した英国応援や文化・芸術分野での交流など、川崎市ならではの特色ある取組も継続して展開された。

During the camps, the interaction between the GB athletes and the public had to be severely restricted in line with COVID-19 prevention measures. However, thanks to the relationship of trust between Kawasaki City and the British Olympic Association/British Paralympic Association that had been steadily built, the accumulation of omotenashi efforts by organizations in Kawasaki City to support the British team were highly successful. These included making practical use of: new social networking service, school buses from the Kawasaki Municipal Special Support School, and the Todoroki Athletics Stadium. In addition to preparing the pre-games training camp sites, we continued to develop distinctive initiatives unique to Kawasaki to support GB teams, including serving British-style school lunches at all public schools and nurseries in the city, and developing exchange programs with the UK in the fields of culture and the arts.

本市独自の 取組①

# パラリンピック選手団移送のための 市立特別支援学校スクールバスの活用

## | パラアスリートにとっての |「アクセシブル」

東京2020パラリンピック競技大 会の開催が決定し、改めて大きな課 題として浮かび上がってきたのが、 アスリートが安心して使用できるア クセシブルな宿泊施設や専用車両の 充足である。事前キャンプ地におい てもこれは大きな課題であり、いか に良質な練習環境を確保して大会本 番に臨むことができるかが選手団の 成績を左右するため、英国パラリン ピック委員会 (BPA) も、視察当初か らアクセシブルルームを有する宿泊 施設やリフト付きバスの確保を模索 していた。例えば英国の事例でいえ ば、介助を必要としない車いすアス リートにとって、宿泊施設のバスルー ムにバスタブは必要ないものの、バ スルームの手すりやシャワーヘッド の位置などは選手本人が問題なく使 用できるようアクセシブルとなって いる必要がある。BPAはそのような 部屋を選手の人数分確保する責務が あるが、日本のいわゆるバリアフリー 法の基準を満たしている部屋が選手 にとってアクセシブルであるとは限 らないため、アクセシブルな施設の

確保は克服すべき大きな論点となった。これはどのホストタウンでも同様に課題となったと思われる。

英国チームは大規模選手団であ り、キャパシティの問題から川崎市 内での宿泊施設の利用は早々にBPA の選択肢から外れ、本市への相談事 項はもっぱら選手団の円滑な移動手 段に関することに絞られた。車いす 利用者が専用車両で移動する場合、 スロープや電動リフトの設備がある バスやタクシーなどの利用が必須と なるが、BPAは選手、スタッフ、介助 者が一団となって行動することを大 前提としており、急速に普及が広まっ たユニバーサルタクシーを利用する という選択肢は早々に消えた。一方、 すでに大会組織委員会が大会用に首 都圏のバス会社から多くの大型車両 や福祉車両を調達しており、BPAが 必要とする車両数の確保に困難も生 じていた。公益を目的とした非営利 組織であるBPAにとって、低コスト で大人数を専用車両で運ぶことは事 前キャンプを成功させるための至上 命題である。川崎市ではBPAからの 相談を受け、川崎市等々力陸上競技 場でトレーニングを行う陸上選手団 の宿泊施設との移動用に、市立特別

支援学校のスクールバスを活用できないか検討することになった。

## 特別支援学校スクールバス の活用スキーム

これまでの事業を通じて協力関係にあった市立田島支援学校に、オリンピック・パラリンピック推進室がスクールバスの利用可能性について相談にうかがったところ、学校側から「夏季休業中でスクールバスを使用しない期間であればぜひ協力したい」と快諾をいただき、教育委員会事務局にも「法的に問題がなければ市全体でパラリンピック代表チームの事前キャンプを成功させましょう」と協力体制を組んでもらえることとなった。どのような対応が可能か、法的な整理も含めた具体的な検討作業が2018(平成30)年度から始まった。

特別支援学校のスクールバスは、川崎市がオートリース会社と複数年の賃貸借・保守契約を結び、リース期間中は学校の敷地に車両が駐車・保管されている。運行についても川崎市が運行事業者と運転業務にかかる契約を結び、毎日定められた運行ルートに沿って専属の運転手が児童・生徒の送迎を行っている。オー



等々力陸上競技場に入る「はなみずき」号





パラ陸上の選手たち

トリース会社も運行事業者も、夏季 休業期間中にBPAのためにバスを使 用することについて了承し、関係者 の協力姿勢は一致していた。

問題は、事前キャンプ期間中、誰がどのように運行経費を負担するかであった。リース契約や自動車保険契約は契約期間すべてが対象となるため問題ないが、運転業務に係る契約は登校日数をベースに経費を算出しており、学校の夏季休業期間にBPAのためにバスを使用する場合、当然に燃料費や人件費などの経費が新たに発生する。またスクールバスは白ナンバー(自家用自動車)のた

め、有償で貸したり運送の対価を利用者から徴取したりする場合は道路運送法の対象となり、事業者としての登録・許可が必要となる。そのため、川崎市がバスを運行してBPAから対価として金銭を徴収することは法的に困難であった。

これらの状況を整理すると、BPAにスクールバスを使用させる場合、市が新たな契約を運行事業者と締結して、事前キャンプ期間中BPAに無償で乗車させるようにする「市が経費を負担する方式」か、市が一度BPAにバスを無償で貸し出したうえで、BPAが事業者と直接契約を締結

してBPAの借上げ車両として運行する「BPAが経費を負担する方式」か、2種類の選択肢があることが見えてきた。監督庁にも確認のうえさまざまな事項を市として総合的に判断した結果、BPAが事業者と契約して運行費用を直接支払うスキームを採用することとし、BPAからの協力要請に正式に応じることとなった。同時に、田島支援学校のスクールバスの車体に事前キャンプPR大使のきかんしゃトーマスキャラクターやGOGBロゴマークのステッカーを貼って、学校側に英国応援の機運醸成にも協力していただくこととなった。

## 運行実現に向けた 険しい道のり

スキームが確定してからの運行 実現に向けた道のりは想定外に険し かった。当初BPAは2020 (令和2)年 上半期に等々力陸上競技場でプレ 事前キャンプを行うことを希望して おり、その際に運行ルートや意思伝 達方法などの課題出しを行うつもり であったが、新型コロナウイルスの 世界的まん延によりプレ事前キャン プが白紙となり、その目論見は崩れ 去った。また大会が1年延期となっ た結果、運行事業者の契約更新時期 を迎えるタイミングと重なり、2021 (令和3)年度の事業者が入札で決定 するまでの間、事業者との事前調整 を行うこともできなかった。さらに コロナ禍での事前キャンプ受入れに 向け厳格な感染症対策が必須とな り、当初予定していたサポーターの 同乗が困難となるなど、運行上の課 題も出てきた。関係者が直接会って 互いの課題認識や使用に関する細か な調整を行う機会を全く持てないま ま、事前キャンプ受入れ時期だけが どんどん近付いてきた。

受入れ2か月前になっても契約準 備が全く整わないなか、これまでの



経緯を把握しているBPA担当者が選 手村担当となり移送業務を外れ、新 たな担当者とスキームの説明と調整 を一から始めることとなった。結局、 川崎市が音頭をとって急ピッチで各 種契約書の作成作業を開始すること となり、まず、市側でBPAにスクール バスを無償で使用させる契約書を日 本語で作成し、英訳してBPA側の弁 護士と内容を調整し合意を取り付け た。次に、BPAと運行事業者との間 の契約についても、双方の調整者で ある川崎市側で原案を作成すること となり、川崎市を仲介して何度も英 語と日本語の契約書案が往復した。 さらに肝心のバスの運行時間や運行 頻度の調整はBPAの移送担当者が入 国してからの最終調整となったため、 最終的にBPAと事業者の間で運行業 務に係る契約書が締結されたのは、 運行開始のわずか数日前であった。

#### ■心あたたまる送迎風景

実際の運行が始まるまでは課題と 不安が山積した状態であったが、い ざ運行を開始してみると、運行に遅 れも発生せず、スクールバスでの送 迎はあっという間に日常のキャンプ 風景に溶け込んでいった。さすが 普段から送迎に携わっている運転 手の皆さんの対応はプロフェッショ ナルで、英語で簡単なあいさつを行 いつつ電動リフトを使用しての乗降 作業もスムーズに行い、選手団の満 足度は非常に高いものとなった。ス クールバスは朝から午後にかけて、 宿泊施設と等々力陸上競技場を三 往復し、運転手の皆さんも市職員や サポーターと同じユニフォームを着 用してチームカワサキの一員として 運行を担い、運営側の一体感もおお いに形成された。座席シートが子ど も向けのため、長い脚を折り曲げて 窮屈そうに座っている選手やスタッ フの姿はほほえましかったが、皆で



スロープを使用する「はなみずき」号と選手団



等々力陸上競技場に入る「なのはな」号と選手を歓迎するサポーターたち

和気あいあいと談笑しながらバスに 乗り込んでいく様子を見ていると、 BPAが「選手団は分乗せず全員で移 動するのが必須」と言っていたことは こういうことか、と腑に落ちた。

学校の夏季休業は8月25日で終了となるため、それ以降の日程や夜間の運行はBPAが別途手配した他のバス会社が担うこととなり、必ずしもすべての運行スケジュールにスクールバスが登場したわけではない。それでも大会開催でさまざまな経費が高騰するなか、BPAにとっては、本市の特別支援学校のスクールバスを活用することで、質的にも経費的にも選手団の移動のストレスが軽減され、満足のいく事前キャンプになっ

たことは間違いないだろう。

スクールバスは毎日2台体制で運

行し、それぞれに「なのはな」「もくれん」「はなみずき」などの花の名前がついている。白い車体に緑色の帯が入ったバスが競技場の敷地に現れると、我々スタッフやサポーターは、なんともほほえましく、温かい気持ちになったものだ。いつもは田島支援学校の児童・生徒を乗せて市内を巡回しているスクールバスだが、関係者にとっては数年に渡る地道な協力と調整の象徴でもある。2021(令和3)年の夏に、等々力陸上競技場でそのような活躍をしていたとはあまり知られていないが、関係者の思い出を乗せて今日も力強く走っている。

本市独自の 取組②

# サポーター活動における SNSの導入と活用実績

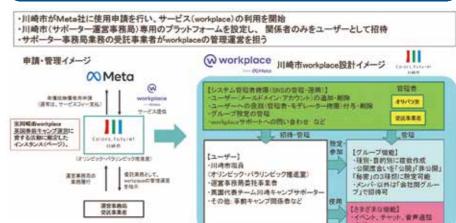
2020 (令和2) 年3月24日に、東京 2020大会の1年の延期が決定した。 コロナ禍でも万全に英国代表チーム の事前キャンプを受入れるだけでな く、それをサポートするボランティ ア「英国代表チーム川崎キャンプサ ポーター(サポーター)」の確保、そ して、コロナ禍を踏まえたサポー ター間のコミュニケーションの活性 化が必須となった。こうした状況 で、大きな役割を果たしたのが、川 崎市が全国の地方自治体で初めて独 自導入した「Workplace by Meta」 (Workplace) であった。ここでは、 Workplaceの概要と川崎市におけ る英国事前キャンプ受入れ、特にサ ポーター活動においてどのように機 能したか、活用結果を交えて紹介し たい。

# 地方自治体では日本初の導入

Workplaceは、Meta社(旧Facebook 社)が提供するビジネス用SNSサービスである。一般向け「Facebook」で用いられるコミュニケーションや情報共有の仕組みを使い、ビジネス向けにイントラネットやプロジェクト管理のためのプラットフォームを提供する。

導入の契機は、事前キャンプを 実施する英国オリンピック委員会 (BOA)から、より迅速かつ正確に情報共有を行うのに最適なツールとして、このWorkplaceの利用提案を受けたことであった。他方で、新型コロナウイルス感染症の影響による東京2020大会の1年延期が決まり、登録したサポーターの登録継続とともに、そのモチベーションの維持・向上

# ▶Workplaceの活用イメージ(導入・設計)



#### **▶Workplaceの詳細機能**



日「日を見アループ」、エーデーに指摘されていない機能をとった。エステートをとを思るための、アルース

権限付与とグループ設定

や活動内容のアップデート、コロナ 禍における研修会等の開催方法の工 夫が求められる状況にあった。そこで、すでに導入していたメールや電話、専用のウェブサイトでの連絡体制に加え、"オンラインコミュニケーションツール"の導入により、体制強化を図るだけでなく、オンライン上でサポーター間の活発な交流やさまざまなアクションを生みだすことを目指した。すぐさま、Facebook社(当時)へ連絡を取り、導入準備を急いだ。同社曰く、日本の地方自治体としては初の導入事例であるという。もちろん川崎市で過去導入した事例

はなく、"ボランティア事務局運営" という、本来Workplaceが利用されるシーンとは異なる環境での活用ということも相まって、導入に向けたシステムや情報セキュリティに関する市条例や基準を所管する担当課と度重なる協議を行った。庁内検討に多くの時間を要したが、Meta社担当者の献身的なサポートと、同社による政府機関向け有償版「アドバンス」プランの12か月無償提供を行う緊急サービスの開始も後押しし、ようやく利用開始に向けた具体的な準備が始まった。

# ■ モニターを入れての ■ テストから本格運用へ

サポーターに問題なく使ってもら えるように、2020(令和2)年春は、庁 内での導入に向けた協議・調整と同 時並行で、川崎市事前キャンプ担当 者はひたすらWorkplaceの動作確認 を重ねた。Workplaceの基本的な機 能を把握し、使いやすさと管理しや すさのバランスなどを徹底的に検証 しながら、使用機能や付与権限の取 捨選択、グループやメンバーの定義 と設定、具体な利用シーンと運用の 検討、禁止事項の整理などを進めた。 また、英語で書かれたWorkplaceの 各種ポリシーを全て読み解きつつ、 川崎市の運用にあわせた独自の規程 を策定し、ユーザー向けのマニュア ルへ情報を落とし込んだ。

同年6月、サポーターへWorkplace の導入を案内するとともに、使い 勝手を確認してもらうための「モニ ター | を募集し、20名のモニターと ともに、約2か月の運用テストを行っ た。この期間、Workplaceへの招待 からアカウント有効化までの流れ、 基本操作をチュートリアル形式で体 験してもらった。オンライン交流会 も開催し、今後のサポーター活動を 見越したあらゆる動作確認が行わ れた。モニターの積極的な意見や フィードバックもあり、Workplaceの 使い勝手は格段にバージョンアップ した。また、モニターの一部の方に は、「Workplaceナビゲーター」となっ てもらい、これから参加するサポー ター、特にSNSを使ったことがない 人などへのサポートをお願いした。

同年10月から、全サポーターを対象としたWorkplaceの案内及び招待を開始した。なお、翌年4月までの期間は任意参加とした。連絡ツールの乱立やSNSへの不慣れを理由にサポーターから戸惑いの声も

あがったが、丁寧にケアを行いなが ら少しずつ事務局・サポーターとも Workplaceの利用に慣れていった。 この間、情報ライブラリ機能を用い て研修資料やセミナー映像のアーカ イブ、事前キャンプ現場での連絡応 答を想定したチャットグループの運 用、News&Updatesグループによる 英国代表チームの最新情報や英国メ ディアニュースの発信など、利用機 能や運用ケースを拡張しながら、積 極的な活用を行った。

# 事前キャンプ期間に Workplaceの真価を発揮

2021(令和3)年4月に入り、コロナ禍においても英国代表チームから川崎での事前キャンプ実施の意向が伝えられ準備を進める中で、全サポーターにWorkplaceの利用を必須とする本格導入の時期を迎えた。この時点で9割ほどのサポーターはWorkplaceの操作を実際に行っており、シフト調整や研修会の開催案内など、特段の問い合わせなく、サポーターが情報を受け取ることができる状況になっていた。6月初旬、BOAが管理するWorkplaceグループへの招待が始まった際も、サポーターはなんなく参加することができた。

同年7月に、英国オリンピック代表 チームが来日し、いよいよ事前キャンプの受入れがスタートした。受入 れ開始早々、セットアップに従事し たサポーター数人からこんな声があ がった。「サポーター同士で、現場の 情報、引継ぎ・申し送り事項を共有 したい。Workplaceを利用できない か」この意見に、事務局サイドはやや 頭を悩ました。これまでサポーター の私的活用や炎上のリスクなどを踏 まえ、"グループ内での投稿は管理者 (市職員や事務局メンバー)のみ""自 由投稿は禁止"、というルールを設け ていたからである。しかし、英国と



サポーターからさまざまな反応が寄せられる



折り紙の折図がアップロードされ、 サポーター間でスムーズに引き継ぎが進む

の調整やコロナ対策で精いっぱいの 事務局サイドの状況も鑑み、ルール を変更し、Workplace上に等々力陸 上競技場とホテル、それぞれの施設 でのサポーター活動の情報を交換す るための「情報共有用グループ | を設 定した。導入の結果、サポーターは それぞれ積極的に現場の情報を発信 した。サポート活動の内容、注意事 項、次のシフトに入る方へのワンポ イントアドバイスなど、きめ細やか な情報が伝えられ、直接顔を合わせ ずとも、サポーター同士の絆が深ま り、英国代表チームへの安定したサ ポートが提供されていった。中でも、 選手やスタッフへのおもてなしに関 して、Workplaceの真価が発揮され た。1人のサポーターから、おもてな しアイデアが投稿されると、多数の 賛同とともにそれぞれが持つスキル や経験によるアドバイスが集まり、

あっという間におもてなしのグッズが完成した。シフトの都合上、グッズの制作が途中となれば、「夜シフトの方、続きをお願いします」「了解しました」という具合に、Workplaceを介してすぐに作業が引き継がれていった。直接会ってはいないが、1つのおもてなしグッズを一緒に作り上げたという人たちもいただろう。メッセージボード、折り紙アート、選手やスタッフの似顔絵、選手個人への励ましの言葉など、紡ぎだされたおもてなしは数知れず。Workplaceがこのバトンリレーを生み出したことは、明白であった。

## Workplace活用の結果と 今後への示唆

Workplaceの活用は、導入時こそ 事務局内で賛否両論あったものの、 結果として抜群に機能したツール であったと言っても過言ではない。 Workplaceの優れた機能であり、メ ンバー間のコミュニケーションを データで閲覧することができる「イ ンサイト」によれば、MAU (月間ア クティブユーザー) は事前キャンプ

が終了した9月時点で91.45%(事 務局メンバーを含む) であった。ま た、Workplaceを本格導入した期 間(2021(令和2)年4月1日~9月30 日) におけるサポーターのアクティ ビティデータを見ると、118人のサ ポーターのうち、107人が延べ5,949 回リアクションを行ったことが分 かった。リアクションだけ見れば、 1人あたり55回以上のアクションを 行ったこととなり、利用必須のツー ルとは言え、約9割のサポーターが Workplace上で積極的にコミュニ ケーションを取っていたことを示 す。おもしろいことに、この期間、 Workplace上で最もアクティブで あったサポーターは、事前キャンプ への従事期間は6日間、最低活動日数 より1日多い程度であった。シフト に入らなくても、Workplaceを通じ て、サポーター活動の状況を把握し オンラインで参加できる環境が生ま れたことで、サポーターの能動的な アクションを誘導し、結果として先 に紹介したおもてなしの創造など、 チームが活性化したのではないだろ うか。

活動終了時にサポーターに行った アンケート結果(n=85、回答率72%) でも、4つの連絡手段のうち、最もよ く使った連絡手段として80%以上が Workplaceチャットを選び、75.3% が「効果的だった連絡手段」として同 チャットを挙げるなど、Workplace の実用性は明らかだ。サポーターに よる声として、「参加していない時も 様子が分かり、よりチームの一員と いう気持ちが強くなった」「日々の活 動レポートのおかげで、間隔が空い た後の活動でも、ギャップを感じな かった。引継ぎがなくてもだいたい の業務は支障なく取り組めた。」「リア ルタイム」「メッセージを簡単に送れ る為、とても便利」と、シフトが不規 則、かつ、刻々と変わる活動に対して、 Workplaceが有意に機能したことが 分かる。他方で、「最初の登録が面 倒」「使い方の研修が欲しかった」「一 つの投稿に対して、複数のお知らせ メールが来るのが煩わしい」「最新情 報に行き着くのが大変」などの声も あり、利用方法に関する適切なレク チャーや通知方法の工夫に改善の余 地があることも分かった。

ここまで述べたとおり、Workplace は、事務局とボランティア間、そし てボランティア同士のコミュニケー ションを加速させ、現場での活動が 制限される中でも、生きたつながり を生みだし、事前キャンプ成功の一 翼を担ったと言うことができる。導 入前の機能や運用方法の検討、明確 な運用ポリシーの策定、ユーザー1 人あたり4ドル発生するコスト、期 間中の運営時間に利用者の窓口やサ ポートを行う管理者の設置など、導 入に当たりいくつか条件は生じる ものの、今後、各種プロジェクトに おいて、アクティブなコミュニケー ションを促すツールとして、この Workplaceの導入を検討してみては どうだろうか。

